



紡ぐ

～みんなが元気に みんなが幸せに～

No.87 平成30年 5月25日
南教育事務所 社会教育班

第1回学校・家庭・地域連携協議会

180名を超える事業関係者が一堂に会して、年度初めの学校・家庭・地域連携協議会が5月16日に県生涯学習センターで行われました。この協議会は、学校・家庭・地域の連携・協働のあり方について協議することで、地域全体で子どもを育てる環境づくりの推進を目指しています。



文部科学省初等中等教育局視学委員として活躍されている貝ノ瀬滋先生による講演では、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の連携・推進」という演題のもと、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の目的や取組の良さ、課題などが紹介されました。「コミュニティ・スクールは学校の応援団。子どもをより良く育てるためには地域ぐるみで学校の経営方針を理解し、話し合われた内容が地域住民にも理解してもらえるような仕組みをつくるのが大事。」と熱く語る貝ノ瀬先生のお話は、学校と地域の望ましい関係も示唆してくださいました。「数十年後の未来のためにも、大人同士がつながり合って体制をつくっていくことが大切だ。」という言葉に、社会教育の幅広さや重要性を強く感じました。

午後は、潟上市教育委員会学校教育課長山田敬輔氏による実践発表とグループ協議が行われました。天王中学校区の地域学校協働活動の取組は、昨年度の文部科学大臣表彰を受賞されています。「小さく産んで大きく育てる」を合い言葉にコーディネーター同士がつながり、地域の人材や団体等との連携・協働を通して、地域貢献として取り組んだ内容を教材化している実践も魅力的です。地域全体で子どもの学びや成長を支える取組は、地域の教育力の向上につながりますし、



参加する住民の生きがいにもつながります。「やればいい」ではなく「何のためにやるか」を大切にして確実な実践を積み重ねている発表に、学校を核とした地域づくりについての理解を深めることができました。また、グループ協議では、市町村毎に抱える課題や今年度の取組等について話し合い、地域ぐるみで子どもを育てることの良さや効果を共有できました。「コミュニティ・スクールのゴールは子どもたちの未来。子どもたちがしっかり生き抜くために。みんなが幸せに。」と話された、貝ノ瀬先生のまとめの言葉も深く心に染みしました。

第1回市町村訪問を終えて

南教育事務所では、3年前から各市町村教育委員会及び生涯学習課を年2回訪問しています。今年度は、4月19日を皮切りに24・26日と3日間かけて訪問し、今年度の重点施策や取組について協議しました。社会教育の推進体制の充実を図るために南教育事務所が推奨しているのが、「南の社会教育の推進プラン」への記載や活用についてです。昨年度も各重点項目に対して具体的な施策や事業の手立てを考えて実践することで、PDCAサイクルを機能させた取組の推進につながりました。その中で評価システムが確立されている市町村はもちろんのこと、昨年度より独自の評価システムを取り入れたり中期社会教育計画の評価欄に工夫を加えたりしながら目標の実現に迫ることで、課題解決に向けて前進している様子も伝わってきました。ある担当者からは、数年先も見据えて課題解決のための手立てを具現化しようとしている説明も伺うことができ、地域住民のための社会教育のあるべき姿を教えてくださいました。今年度も可能な限り市町村事業を訪問させていただき、魅力的な取組は、この「紡ぐ」で紹介しながら取組の良さを発信したいと思います。



社会教育アドバイザーコラム

みらいのまちをつくる

社会教育アドバイザー 鈴木美津子

2040年には多くの地方自治体の存続が困難になるという国の研究機関の発表を受け、少子高齢化対策は秋田県の喫緊の課題となっています。地元の現状を詳しく知りたいと思い、年度末の慌ただししい日でしたが、「みらいのまちづくりフォーラム」に参加しました。

エコノミストの藻谷浩介氏による講演は、国内の人口の推移や県内の子どもの出生率をグラフで示しながらクイズ形式で展開され、参加者の興味関心を高める内容でした。知っているようで正確には知らないことも多く、自分の知識不足に苦笑することもしばしばでした。特に驚いたのは、首都圏や仙台市と地元との動向の対比です。人口が集中する大都市では65歳以上の高齢者が増加傾向にあるため、医療福祉に関わる予算が激増し、介護福祉施設の不足や働く若い人の確保が難しくなるのだそうです。それに対して地元では、高齢者は今後減少に転じる見込みのため、医療福祉の予算を若者の定住に当てるなどの新たな一手を打つことで、持続可能なまちになるとのことでした。会場には高校生や若いスタッフの姿も多く見られ、率先してまちづくりに参加している様子にことのほか頼もしさを感じました。

まちを持続させるためには、交流人口を増やすことも一案ですが、若者が地元に残りたくなるようこの地で頑張っている大人の存在を示すことも必要なのだそうです。今回は時間の都合で後半の発表を聞くことができませんでしたが、地元の良さに改めて気付くと同時に、大都会では味わうことのできない幸せを日々の暮らしの中で堪能していることも実感できました。

そしてもう一つ心に残ったことは、講演内容を模造紙にまとめたグラレコ（グラフィックレコーディング）の効果です。若い担当者は、藻谷氏の話聞きながらイラストや記号を使って模造紙に分かりやすくまとめていました。後日HPに掲示されていたグラレコは、模造紙でなんと10枚。こんな風にまとめることができれば、講演記録にも楽しさを感じることができるでしょう。直接目に飛び込んでくるまとめ方の技術とセンスに感心しながら、担当者の人柄も伝わってくるようなグラレコに大いに刺激を受けました。若い世代が参画して考えるみらいのまちづくり。今年度新たに始まるプロジェクトにも注目しながら、住民参加型の取組に期待したいと思います。



お知らせ

県南地区第1回放課後支援者研修会

学校・家庭・地域連携総合推進事業及び放課後児童健全育成事業に関わる関係者を対象に、日常の指導技術の向上を目指した研修会を行います。毎年、「とても参考になった。」「普段の活動に取り入れたい。」といった感想をたくさんいただいておりますが、実施後のアンケートをもとに、今年度も参加者のニーズに応えた講話や実技研修を設定しました。実施要項はすでに市町村担当者にお送りしていますが、今年度もたくさんの方々に参加いただければ幸いです。申し込み締め切りは、6月5日（火）です。



☐ 期 日 平成30年 6月12日（火） ☐ 会 場 横手市浅舞公民館

☐ 日 程

9:20 受 付

9:40 講 話 「子どもたち一人一人に応じた適切な指導や支援」

講師：秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 阿部裕子氏

10:50 実技研修「充実した放課後支援に活用できる楽しい体験活動」（選択）

○リサイクル工作教室

○わりばし細工教室

○おもちゃ作り・運動遊び教室

○リズムダンス教室

○押し花しおり作り教室

○室内遊び教室

☐ その他 館内は外履きで入ることができます。リズムダンス教室を希望する場合は、内履きが必要です。

